



りんご生産情報（8月号）

令和6年8月6日
北地区営農係

1、肥大状況

8月1日現在の肥大状況は、各品種で平年を上回っています。

着果量の多い園地が見られます。肥大の劣る果実や障害果などを中心に、見直し摘果を実施しましょう。

単位：cm

地点/品種	つがる	ジョナゴールド	王林	ふじ
中崎(平場)	7.3	7.1	6.7	7.3
住吉(中間)	8.2	7.1	6.9	7.3
弥生(山手)	7.3	7.2	6.4	7.1
農協平均(平場)	7.7	7.1	6.8	6.9

2、早生種の着色管理

7月31日の熟度調査では、硬度、酸度が平年より低く、糖度、ヨード反応は平年並みに推移しています。

本年の生態や熟度の進み、夏場の高温が予想されることから、ストッポール散布デーは、きおう・未希ライフ・サンつがる・葉とらずつがるで8月15日～20日となります。

ストッポールの散布後に高温が続くと、着色しないまま熟度が進み、軟質果など品質低下を助長する恐れがあるため、適期散布に努めましょう。

葉摘みはストッポール散布後5日後頃を目安に、陽光面の着色を確認してから始めましょう。

また、つがるは軽い葉摘みでも着色するため、果実に付着している小さい葉を摘み取る程度にしましょう。

なお、最低気温が下がらず高温が続く場合は、玉回しを中心とした着色管理（葉とらず）に切り替えましょう。

3、早生種の収穫

熟度が一斉に揃わないため、着色の進んだものからすぐりもぎを徹底しましょう。すぐりもぎを行うことで、残った果実の着色、肥大が進みます。

きおうについては、カラーチャートを利用し適期収穫に努めましょう。また、早期に着色しているものはカチンコ（内部裂果）の可能性が高いため、見つけ次第摘果しましょう。

4、薬剤散布

高温が続いているため、前回（7月末）の薬剤散布で殺ダニ剤を散布していない園地では、必ず殺ダニ剤を散布してください。

回数	散布時期 (散布日の目安)	対象病害虫	薬剤名 及び混合順序	倍数	1000 当り薬量	防除上の注意
1 1	8月半ば (8月12日)	斑点落葉病、炭そ病、すす病 シンクイムシ類	オリオン(水) 殺ダニ剤(適用表参照) アリエッティC(水)	1,000倍 800倍	500g×2袋 1.25kg×1袋	・アリエッティCは最後に混用しましょう。 ・収穫前日数を必ず確認しましょう。
1 2	8月末 (8月26日)	斑点落葉病、炭そ病、すす病 シンクイムシ類	ダイパワー(水) イカズチWDG	1,000倍 1,500倍	1kg×1袋 333g×2袋	
1 3	9月半ば (9月9日)	すす斑・すす点病、 リンゴコカクモンハマキ	オーソサイド(水) デリゲートWDG	800倍 10,000倍	1.25kg×1袋 100g×1袋	

殺ダニ剤適用表

薬剤名	ナミハダニ	リンゴハダニ	サビダニ	倍数	収穫前日数	効果発現程度
コロマイト乳剤				1,000倍	前日	速効性(3~5日)
マイトコーネフロアブル				1,000倍	前日	やや速効性(5~7日)
オマイト水和剤				750倍	3日	やや速効性(5~7日)

りんご栽培履歴の提出は、9月2日(月)までに支店窓口に提出してください。

9月以降の散布は、散布が終了次第、特別散布報告書に記入の上、提出ください。

